

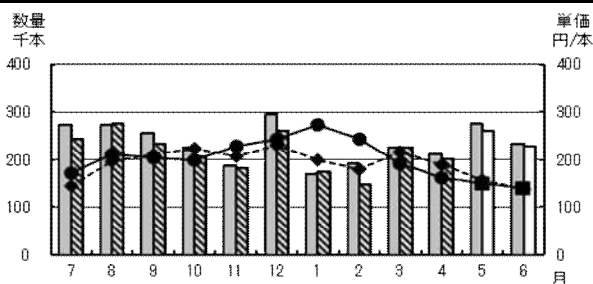
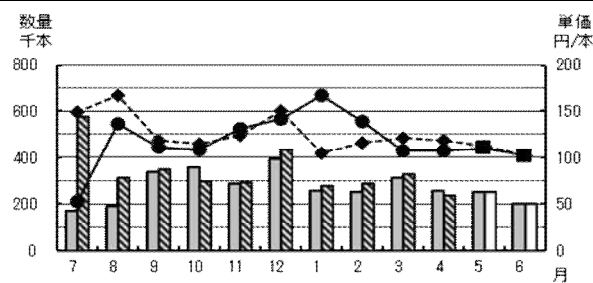
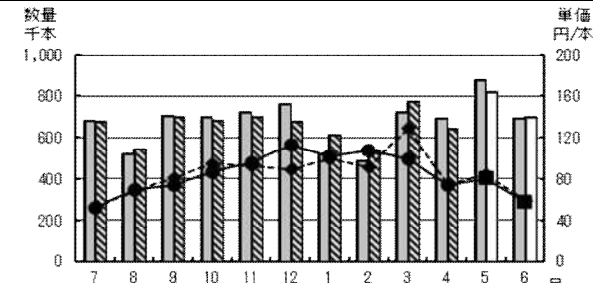
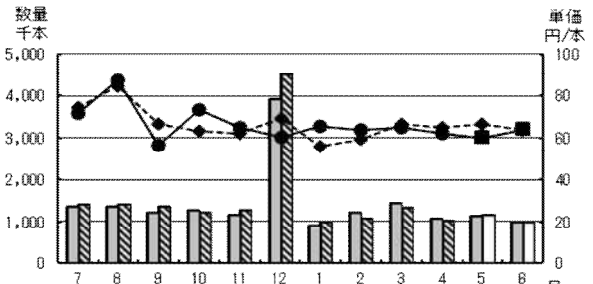
切花・鉢花の6月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月31日現在）

単位：千本、円／本

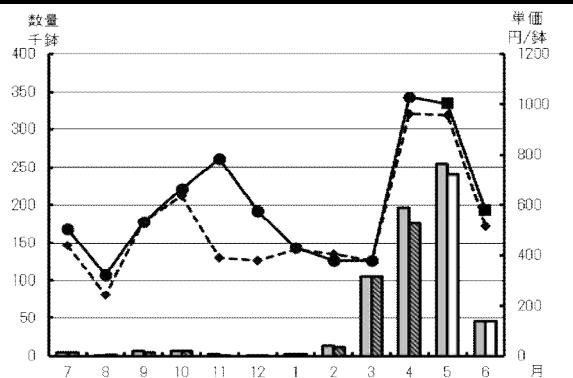
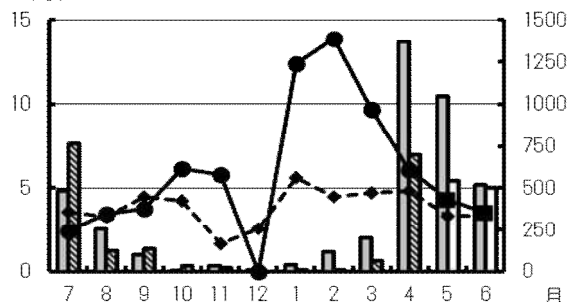
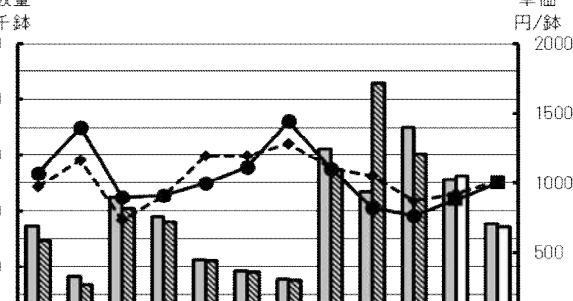
品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ く	実績	2020年	1, 1 3 9	4 3	
		2021年	1, 3 3 4	3 9	
		2022年	1, 3 6 0	3 8	
		2023年	1, 0 8 1	3 5	
		2024年	1, 3 7 9	3 0	
	5ヶ年平均		1, 2 5 9	3 7	
	2025年見通し		1, 2 5 0	3 5	
概要	愛知中心の入荷。中旬以降入荷量も伸びてくる。相場も軟調になりやすい月なので、販売面は苦しい見込み。				
小 ぎ く	実績	2020年	1, 0 9 9	3 3	
		2021年	9 0 2	4 2	
		2022年	1, 0 7 8	2 4	
		2023年	1, 0 0 0	2 7	
		2024年	9 2 8	2 1	
	5ヶ年平均		1, 0 0 1	2 9	
	2025年見通し		9 0 0	2 5	
概要	愛知、埼玉、沖縄から入荷。梅雨入りのタイミングもあるが、入荷量は前年よりやや減少の見込み。季咲品種が多いので色バランスに偏りが出やすく、相場も安定しづらいだろう。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年	9 1 8	4 0	
		2021年	7 7 6	5 3	
		2022年	8 3 6	4 9	
		2023年	8 6 5	5 4	
		2024年	8 6 6	4 5	
	5ヶ年平均		8 5 2	4 8	
	2025年見通し		8 5 0	4 8	
概要	愛知県産中心から長野県産に産地が変わってくる。愛知県産は例年並みに土壌消毒作業に入るため、スプレー中心に一時期少なくなる。長野県産は例年より若干早めの入荷見込み。				
か す み そ う	実績	2020年	1 1 1	7 6	
		2021年	1 0 1	1 1 0	
		2022年	1 0 8	1 0 7	
		2023年	1 1 6	9 8	
		2024年	1 3 5	8 0	
	5ヶ年平均		1 1 4	9 3	
	2025年見通し		1 2 0	9 0	
概要	暖地産が終了し、長野県産に加え中旬からは福島県産も始まる。4、5月の気温が低めに推移したこと高冷地物の生育に遅れが見られる。下旬には数量も相場も安定する見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2020年	3 0 5	1 0 4	
		2021年	2 4 9	1 4 6	
		2022年	2 5 1	1 5 5	
		2023年	2 4 1	1 4 8	
		2024年	2 3 3	1 3 8	
	5ヶ年平均		2 5 6	1 3 7	
	2025年見通し		2 3 0	1 4 0	
	概要	西南暖地については作付が減少しており、上中旬の入荷は多くない見込みである。新潟については生育は順調。需要が多い月ではないため、相場は軟調予想。			
洋らん	実績	2020年	2 1 8	8 6	
		2021年	2 0 9	1 0 3	
		2022年	2 1 9	1 0 7	
		2023年	2 0 3	1 1 6	
		2024年	2 0 3	1 0 2	
	5ヶ年平均		2 1 0	1 0 3	
	2025年見通し		2 0 0	1 0 2	
	概要	鹿児島、愛知、静岡、輸入品が入荷する。オンシジウムは上位等級を中心に増加する。デンファレはアンナ中心に減産。今年は雨季が早く、しばらく少ない状況が続く。シンピジウムは国産が終了し、輸入待ち。カトレアは減少の見込み。コチョウランは輸入、国産とも安定した入荷が見込まれる。			
ばら	実績	2020年	6 2 8	4 8	
		2021年	6 8 0	5 6	
		2022年	8 3 4	5 6	
		2023年	7 7 3	6 1	
		2024年	6 9 0	5 9	
	5ヶ年平均		7 2 1	5 6	
	2025年見通し		7 0 0	5 8	
	概要	愛知、岐阜、三重の他山形、長野県産の入荷が見込まれる。ブライダル注文が弱くなった分、ローズの日から始まり、父の日や家族、自身へのイベント需要に期待される。			
枝もの	実績	2020年	9 7 3	5 2	
		2021年	9 6 9	6 0	
		2022年	1, 0 7 7	6 4	
		2023年	1, 0 8 1	6 3	
		2024年	9 9 7	6 4	
	5ヶ年平均		1, 0 1 9	6 1	
	2025年見通し		1, 0 0 0	6 4	
	概要	姫ガマ、桔梗、入才蘭、ベッチーズブルーなど夏の花材が始まる。北信中心に様々な花が入荷するが、梅雨時期もあり不安定な入荷となる見込み。			

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
アンズ リウム	実績	2020年	2 3, 2 5 2	9 7 5	数量 千鉢 単価 円/鉢 月
		2021年	1 9, 6 1 5	9 6 7	
		2022年	2 2, 1 9 2	9 7 5	
		2023年	2 5, 5 0 2	9 4 9	
		2024年	2 0, 7 4 5	9 5 5	
	5 か年平均		2 2, 2 6 1	9 6 4	
	2025年見通し		2 1, 0 0 0	9 2 0	
概要	入荷量は前年並か。7号以上は相場が厳しい見込みの為、4号～6号での出荷がメインと思われる。近年は輸入苗の高騰もあり、仕入れ単価が上がり苗の導入も減少傾向の見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（78.6%）、2位長崎（13.9%）、3位滋賀（2.0%）となっている。				
ファレ ノプ シス	実績	2020年	2 1, 2 8 7	3, 3 8 8	数量 千鉢 単価 円/鉢 月
		2021年	1 9, 5 7 5	3, 7 1 5	
		2022年	2 3, 7 5 6	3, 2 0 0	
		2023年	2 4, 3 7 9	3, 3 0 3	
		2024年	1 8, 6 9 1	3, 6 3 7	
	5 か年平均		2 1, 5 3 8	3, 4 4 9	
	2025年見通し		1 9, 4 0 0	3, 5 7 9	
概要	入荷量はやや増加か。3月、4月の低温により開花が遅れており、5月出荷分がずれ込んでいる。大輪は増加、ミディの生産量は若干の増加だと予想される。トランプ関税の影響もあるが、株主総会の需要に期待したい。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（56.0%）、2位静岡（8.4%）、3位千葉（7.2%）となっている。				
バラ及びミニバラ	実績	2020年	3 0, 1 1 5	1 3 0	数量 千鉢 単価 円/鉢 月
		2021年	2 3, 2 4 5	1 5 8	
		2022年	2 1, 7 7 9	1 6 6	
		2023年	1 9, 8 3 9	1 2 9	
		2024年	2 2, 3 6 3	1 3 3	
	5 か年平均		2 3, 4 6 8	1 4 3	
	2025年見通し		2 0, 0 0 0	1 3 0	
概要	入荷量はかなり減少か。上旬で中・大鉢の仕立てものの出荷は概ね終了し、例年通り3号～4号サイズが出荷の中心になる見込み。梅雨入りに従い、需要も落ち着き、中値～安値安定で前年よりも厳しい見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（65.2%）、2位愛媛（31.6%）、3位愛知（2.8%）となっている。				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ ド ラ ン ジ ア	実績	2020年	6 2, 9 6 6	5 5 2	
		2021年	5 1, 7 6 7	6 1 1	
		2022年	7 1, 7 6 5	5 4 7	
		2023年	5 9, 7 4 3	5 0 8	
		2024年	4 5, 2 2 4	5 9 1	
	5 か年平均		5 8, 2 9 3	5 6 2	
	2025年見通し		4 6, 0 0 0	5 7 8	
概要	入荷量は前年並か。出荷は玉咲きアジサイ中心で額アジサイ系は極端に少ない傾向。近年は品種数も多くなり多品種生産だが、季咲きの時期に対応出来る品種にも限りがあり花持ちの良いマジカルシリーズの出荷は多いと思われる。前年は季咲き商品が大きく減少したが今年は前年以上はあり、7号以上の大きいサイズは前年より少ない傾向。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（20.8%）、2位長野（20.3%）、3位兵庫（17.7%）となっている。				
ス パ ティ イ フ イ ラ ム	実績	2020年	1 1, 7 1 2	3 0 6	
		2021年	1 4, 6 4 4	2 6 8	
		2022年	8, 9 6 7	3 5 9	
		2023年	6, 7 4 1	3 6 9	
		2024年	5, 1 7 5	3 3 5	
	5 か年平均		9, 4 4 8	3 2 7	
	2025年見通し		5, 0 0 0	3 5 0	
概要	入荷量は前年よりやや減少か。前年同様に作付量の減少が要因。規格は4号・6号が中心になる見込み。生産量の減少で注文の比率が上がり、価格は前年より上昇することが見込まれる。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（37.1%）、2位三重（34.9%）、3位岐阜（19.3%）となっている。				
ド ラ セ ナ 類	実績	2020年	2 4, 8 8 1	8 8 8	
		2021年	2 2, 7 5 2	9 4 8	
		2022年	2 8, 0 8 8	1, 2 8 6	
		2023年	1 8, 1 2 6	1, 1 0 6	
		2024年	1 7, 8 1 2	1, 0 1 3	
	5 か年平均		2 2, 3 3 2	1, 0 4 8	
	2025年見通し		1 7, 2 0 0	1, 0 0 0	
概要	入荷量は前年よりやや減少か。鹿児島・沖縄での生産が減少している為、地元中心の出荷がメインになる見込み。前年同様、輸入原木が高騰している為、入荷量減少の見込みとなり、出荷は4号～8号までがメインとなる。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（55.0%）、2位沖縄（13.4%）、3位鹿児島（8.1%）となっている。				